

平成22年9月16日

島田市の保育園
幼稚園 保護者 様
小学校
中学校

島田市教育委員会
教育委員長 染谷絹代

(教育委員会からの提言 その2)

**「ほかの人のために
きみはどれだけの時間を使っていますか。」**



と、問われたら、すぐに返事ができるといいのですが……。 「十歳のきみへ」の著者、日野原重明さんは現在98歳の現役の医師。この本の中で日野原さんは上のように問いかけていますが、これは大人への問いかけでもあります。

続けて、「ほかの人のために時間を使えたとき、時間はいちばん生きてくる」とも言っています。

私たちの周りには、ほかの人のために時間を使っている人たちがたくさんいます。子どもたちの登校を見守ってくれる人々、下校時間に通学路に出て迎えてくれる人々、地区の道の草取りをしてくれる人々、川沿いに菜の花やコスモスを育ててくれる人々など。

子どもたちにも、ほかの人の役立つ働きをさせたいものです。できれば、ほかの人のために働くことが**習慣となる**ようにさせたい。もちろん、学校でも勧めていますが、まずは家庭で小さいことから。たとえば、自分のこと以外に次のようなことを一つでもさせてみてはどうでしょう。

- ・新聞を取ってくる。
- ・食器を運ぶ、洗う。
- ・玄関を掃く。
- ・テーブルをふく。
- ・ごみを集めて袋に入れる。

子どもが実行すれば、大人はありがたい気持ちをいつも伝えましょう。家族が喜んでくれることが、子どもにとっては自分の喜びです。

子どものにっこりする顔が浮かんできませんか。